



management
経営
探訪

微細加工で 国内トップクラスの技術を誇り 取引先からの信頼も厚い

大東精機株式会社 取締役社長 梶原孝次氏

沿岸部に製造業が集積する秋田県由利地方にあって、内陸の山間地という特異な立地の大東精機。従業員37名という小規模な事業所だが、微細加工部品製造の分野で国内トップクラスの技術と実績を有する。バブル崩壊で事業内容を大転換してきた会社の歴史を梶原孝次社長に伺った。

親会社の協力工場として創業し 途中から大転換して異分野に進出

当社は、にかほ市に本社のある丸大機工株式会社の協力工場という位置づけで平成3年に創業しました。由利地方の製造業としては珍しく内陸部に本社工場があるのは、雇用確保のためでした。当時沿岸部では既に新規の求人は難しくなっていましたから。

当初は100%丸大機工向けの仕事でしたが、バブル崩壊で仕事が激減したため自社でも独自に営業を行うようになり、現在ではすべて自社営業で獲得した仕事になっています。

当社が得意とするのは、顕微鏡でないと違いが分からないような微細加工と呼ばれるものです。一般の加工会社とは一桁違う精度の仕事をしていて、この分野では国内トップクラスと自負しています。精度が勝負の事業なので出荷検査も入念で、クレームはゼロを堅持しています。

取引は上場企業以外とはしないという原則

を貫いていて、現在の主な取引先は5社。半導体の製造装置や検査装置の部品、液晶パネルの製造装置や検査装置の部品などを製造しています。平成6年以降は一度も赤字を出していません。

知らないことを逆に強みとして 失敗を繰り返しながら技術を磨く

ただ、最初からこういう会社だったわけではありません。丸大機工の仕事をしていたころはこれといって自慢できる技術もなく、兼業農家の社員も少なくないという、いわば“素人集団”同然の会社でした。でも、今となってみれば却ってそれがよかったのかなと思います。

素人集団だから、お客様から「こういうものがつくれないか」と言われたときに、「できません」と断言できるだけの知識がなかったんです。(笑)

それで、失敗を重ねながら、とにかく挑戦し

てみる。何回失敗しても挑戦を諦めない。そういう社風が自然に出来上がっていきました。

工場の建物が小さくなく大型機械は入れられないから、それならば小さいものをとということで微細加工の分野に進出しようとしたのですが、特に社員からは異議はありませんでした。

分からないなりにとにかく取り組み、失敗もたくさんするけれども挑戦を諦めないから、最後にはいいものが出来上がってきます。今、当社の社員には仕事のノルマがなく、個人の作業日報というものもありません。個人プレーを重視すると機械の稼働率向上の弊害になるからです。最初の頃の社員は素人集団でしたが、今は一人ひとりが信頼して仕事を任せられるエキスパートの集団になっています。

提案力のある価格設定と高い品質 将来は商社機能を持った製造業に

海外との競合ということでは、部品の現地調達という流れもあるし、台湾や韓国の同業者が台頭してきているのも事実です。でも、品質はこちらのほうが上だと思っているし、価格の面でもまだ互角に戦えます。値引きは、取引先に要求されるというよりも、こちらから敢えて提案し

ています。それは、取引先との共存共栄という発想でもあり、後発企業が今から設備を入れて参入してきても追いつかれないようにするという戦略でもあります。

将来のビジョンとしては、設備や人員は現状維持でいきたいと思っています。ただ、現在の月商5千万円から6千万円のところを倍にしていきたいと考えていて、そのために、より多くの商品を取り扱う商社機能を持った製造業という業態に、シフトしていくことを目指しています。

大東精機株式会社

〒015-0202
由利本荘市東由利蔵字上の山16の4
Tel.0184-69-3551
Fax.0184-69-3552
<http://daitoseiki.co.jp/>
E-mail daito@mail.edinet.ne.jp



高倍率電子顕微鏡による仕上がり検査。肉眼で確認できる領域ではない。



- A. アルミブロックの削りだし加工による製品が多い。
- B. 自社特注の研磨機。通常品の3倍の価格だと言う。
- C. 顕微鏡を使いながらの手作業工程も珍しくない。
- D. 高い品質の半導体製造装置向けの部品製造も得意分野。
- E. パソコンを使った作業工程の事前シミュレーション。
- F. 社長のトップセールスで全国の上場企業から直接受注している。

